



片耳豚
R18
成人向け

FAIRY SLAVE

© 2014 TIGER & BUNNY
ALL RIGHTS RESERVED.



娼館魔術〈儀式系〉

大人数発動型の誓約型魔法。
契約した対象を性的に支配し
使役する空間を
異相上に生成する大魔法。
発動により異空間と化した
洋館内で起こった契約者の
身体的変化は外界に出た際に
これを適用しない。
なんだこれ。



あの事件に出くわしたのは
私が「妖精女王」として
名の売れだした頃だった

思えば気の緩みからの
油断があったのかもしれない

かなりの好条件なのに
誰も手をつけない依頼書
不思議には思ったが
私はこの依頼を受けることにした

注意深く観察していれば
気づけたかも知れない

それは——
獲物を誘い出す罠だった



ハメられたことに気づいたのは
契約が成立した瞬間だった

不当な違約金を
巧妙に隠蔽した契約書――

契約そのものが儀式魔術の一環で
強引に破棄すれば
呪いじみた強制力で罰則を執行する

内容も解釈によって
いかようにも取れる文面で
事ここに及んで私の身柄は
期間内は拘束されることとなった

男は裏ギルドのメンバーだった
違約金はとも払える額ではなく
逆らえばホームにも累が及ぶ――

「我々の儀式にご協力頂ければ結構。
報酬も正当にお支払い致します」
選択の余地はなく
私は男の要求を受けざるを得なかった

これが長い三ヶ月間の
始まりだった

男は自分のギルドを
「淫蕩の夜会」名乗った――

さあエルザ殿こちらに
儀式の準備が
御座いますゆえ

かの名高い「妖精女王」殿が
加わって下されば
儀式は成功したも同然

お召し物は
換装していただけると
有難いですな

おお——これはお見事
それではこちらに
こちらに——

これよりエルザ殿には
「淫紋」を宿して頂きます

施術はこちらの者達より
抵抗なさりますと
契約破棄になりますので
あしからず——

娼館魔術という馬鹿げた名前から
察してはいたが——
これほど下衆な連中とは思わなかった
あの時私はなんとしても
脱出を図るべきだったのだ

——五月蠅いぞ！
やるならさっさとやれ！

素晴らしいお体で御座います
これならば儀式の立派な
「協力者」となれましょう

儀式は――

ネチヨ

「卑猥」の一言だった

「舌で来るとは思わなかった」
思わぬ不意打ちに強気で返すが
暫くしてからこの行為の
悪辣さに気がついた

体内の魔力の流れを
いじられているのだ――

き……貴様ら――
しつこい――ぞっ

執拗に――執念深く――
下から流れ込む魔力によって
肉体の感覚を高められる

いつまで――んんっ……
舐め回せば――っ

循環する魔力が切り替わり
粘つく舌の不快感が快感に
切り替えられていく

なんとかしなければと焦るが
徐々に昂ぶっていく体に
「気持ちよさ」が駆け抜け
声を上げないでいるのが
精一杯という有様だった

どれほどの時間
舐め回されていたか——
正直なところ記憶が
途切れ途切れで憶えていない

お見事です……流石は妖精女王
エルザ殿には——
娼館魔術の才能がお有りのようだ

うる——ひゃい……

これならばスグにでも
顧客の方に引き合わせられますな

体内で猛火の如く燃え上がる
疼きと快感に炙られて——
私は「淫紋」が刻まれたことにすら
気づかずに——意識を失った

ビロオ

意識を取り戻すと
扇情的な衣装にきがえさせられ
水晶球の前に引き出された

「淫紋」の効果なのか
水晶を通して舐めるような
視線を感じる――

うち

紋の効果で居場所を察知されると聞き
逃走を封じられたことに歯噛みする

どうやらこれから私は
「競り」にかけられるらしい――

ネットリとした視線に「淫紋」が
疼きを送り込んでくるのが
腹立たしいがどうすることもできず
私は体を晒すしかなかった

儀式に出資しているという
私を競り落とした男は
悪どい遣り口で知られる
新興の豪商だった

ほほう——君が噂の妖精女王か
生で見るとやはり格別だなあ
大枚をはいたかいがあった

離せ——気安く触るな……

いつもなら殴り倒して
出て行くところだが
契約のためそれもできず
疼く肌を撫でさする手に
耐えるしかなかった

おお怖い怖い！

でもそんな君も今は——ほれ
ワシにおんなことをされても
何の抵抗もできずに
胸を差し出すしかないねえ

こ——のっ
下衆めえ……っ

淫……紋——がなけれ……ば
この……程度で——っ

あのテイターニアを
自由に躰けられる機会は
滅多にないだろうからな
張り切らせてもらおうか

淫紋の熱に浮かされた体に
男の責めは苛烈だった

我慢せずに
声を出してもいいんだぞお？

ほれほれ——
舌を出して迎えんか

金にあかせて女を買いあさってきた
男の尿管に翻弄され細かな喘ぎを
抑えられない

んん——！
甘露甘露！

やめ——はみゆ……っ

んん——やつ——
ん——むう……

次々と私の甘所が掘り当てられ
何があっても乱れてやるものかと
決した意志が揺さぶられる

今の状態で翫られるには
相手が悪すぎた——

極太の逸物を見せてつけるように
凶悪な雄のソレが
私の秘所にあてがわれる

ピュン

さてと——それではそろそろ
妖精の秘蜜をいただくとしようか

ま——待て——
そ——それはっ

ふほほ——
あのエルザ・スカーレットが
ワシのような男になすがまま
大股開きで淫壺を差し出す
ことしかできんとは——

興奮が収まらん——

のおおおっ！

こ——れ——

マズ——

おん



ここか？ それともここか？
エルザは弱点が多くて
どこを擦り堕とすか迷うのお

ふーざけ……んんっ
ふざけるなあっ！



ほれほれ……そんなに睨まんと
可愛らしく鳴いてみせんか

この——程度でっ
誰が声など——っ



ぬほほっ！ 卑劣な男のチンポで
雌の表情になるのか？
雌顔さらすのか？

おはらおはらおはら
おはらおはらおはら
おはらおはらおはら



おやあー？ どうした？
妖精女王ともあるうものが
だらしない顔なってきたぞお？

やめ——ひやめ……ろお
それい——じよう♡
そこ——こす……らあ——っ



きーくうこう

そうらそうら！
素直にならんなら
雌イキから降りられなくなるまで
妖精マンコにお仕置きたぞお

くわんくわん



むほうー！
名残惜しそうに吸い付きおって

これー効き過ぎるう

そうかそうかー
スグに奥まで会わせてやらんとなあ

思考ーと……ぶっぶっ

そうか

その日の陵辱は
私が気を失うまで続けられた

あの妖精女王が
ワシの腹の下で
身も世もなく
鳴きイっているうー！

決めたぞ！
必ずワシのオンナにしてやる！
チンポ漬けにして身も心も
堕とし込んでやるっ

何発もの精を放たれて
膣奥が男のモノで満たされても
さらに注がれ続ける
暴力的な快感——

「淫紋」を刻まれ——
娼館魔術に取り込まれ——
淫らに鳴かされて——

契約から僅か二日——
逃げる手立てを考える暇もなく
この時点で私は——完全に
絡め取られたことに気がついた

それから一週間——
いまだに私はこの館から動けず
始めて私を買った男の相手を
させられ続けている

かなりの金を注ぎ込み
私を連続で競り落としたらしい

望まぬ行為も憶えさせられ
体のあらゆる場所で男のモノを
悦ばせられるように強要された

完全に囲われたカタチで
私は一人の男に
体を差し出し続けている

今日もまた男好みの
いやらしい換装で
男の下卑た興奮を
煽らなければならない

娼館魔術の効果なのか
行為の最中に
男の好物が萎えることはなく
それと呼応してこちらが受ける
快感は強くなっていく





射精の衝撃と快感が
すり替えられていくようで
頭が混乱するからだ――

頭を撫でられ――
髪を梳かれるのが――つらい



萎えない――
チンポを喉奥で――
何度も何度も――

精液は匂いが凄まじい――
雄の匂いだ……



匂い――精臭――
鼻から抜けて――
めまいがする……



射精を終えてもすぐには
飲み込ませてもらえず
クチャクチャと口の中で味わって
飲み込むことを仕込まれてしまった

ぬちゅ

そうらどうした淫乱ウサギめ
もっとはしたなく腰を振らんか!

まっへえーきひやまが
こひ振り……あひよこのおくにい
ちゆよすぎるーからあつ

もうーひやめ……ろお
イキスギてえ……
あひやまーらんにも……
かんがえられにやいからあ

貴様ではないここでは
旦那様だろう?
また一晩中教えなければならんかあ?

あゝ
あゝ

どうーせ一晩……中
続けーるのだからが

だったらいい加減
ワシの女になればよい
毎日屈服調教で
妖精奴隷妻に
堕としはめ込てやるわい

はあ

ふじゃ……けるなあ

あゝ

あゝ

は

は

あゝ

あゝ

ここまで強情な女は初めてだ
かならずハメ乞いさせて
雌堕ちさせてやるからな!

だ—れがあ……
こんな—チンポに▽
屈する……もの……かあ▽

はあ—▽

はあ▽

この男との関係は
ギルドの仲間達が別件で
裏ギルドを叩く
契約満了ギリギリまで
続くことになる——

その後——この裏ギルドとは
別の事件で再び
邂逅することになるのだが
それはまた別の機会に語るとしよう

あとがきだよ

どうも寒衣屋です。
今回はホントに危ないので手短に
いろいろ遅れてずれ込んで
もうなんか今年はヤバイのですね。
しっかりしなきゃ死んでしまうよホント。
ピンチはピンチだよホント。
戦わなきゃ！現実と！あと時間と！
それでは手にとっていただき
感謝言葉しか浮かばねえ。浮かばねえのです。
ではまた
機会がございましたら。

PS:「じゃあさ、いつになったら俺はのんのん村に移住できるわけ？」

奥付

発行 / 片耳豚

発行日 / 2015/08/16

印刷 / K9

連絡 / katamimibuta@yahoo.co.jp

FAIRY TALE

